

# 強者の戦略

続・京都大学といふところ 第4回 就職活動

皆様こんにちは。研伸館化学科の古谷勇馬です。今回は大学院修士の話です。

大学院になると、講義自体もそこまで多くなく、あるとしても集中講義くらいなので(夏季休暇中の3日間ほど授業を受けて、出席点もしくは最終日の試験またはレポートで単位が認定される。しかし1日6時間ほど講義があるのでハード・・・)、大学にいる時間のほとんどを研究に充てることができます。

私は、結局、卒論の結果が思わしくなかったので、追試験を行ったのですが、それもインパクトのある結果は出ず、なかなか研究が深まらない時期を過ごしていました。こういうときには**さっさと教授とディスカッションをしてアドバイスをもらうべき**なのですが、今の1万倍くらい内向的だった自分には、なかなかそれができなかったのですね。読者の中には研究に携わっている方、あるいは携わろうとしている方もいらっしゃると思いますが、詰まったり分からないことがあったりしたら、さっさとプロに訊くことが大切だと思います。高校生の読者にとっては、勉強法や進路指導に当てはまることですね。何でも独善的ではいけません。

ただ、その追試験でとったデータの中で、メインではないデータがなかなか面白かったので、ここまでやってきた研究はひとまず区切りをつけて(一応論文として投稿しました：[http://jtnrs.com/sym25/sym25\\_j.html](http://jtnrs.com/sym25/sym25_j.html))、今後研究を深めていくために、そのデータについて詳しく調べていくことになりました。

当時はDNA抽出とかRT-PCRとか、どんどんと新しい実験技術を身につけていったり、新たな分野について学んでいったりするのが面白かったと思います。余談ですが、一昨年ぐらいに「ストレンクス・ファインダー」(多くの質問に回答し、そこから自分の強みを知る診断)なるものをやってみたところ、どうやら私は「学習欲」が最も強いようで、それが表れていたのかもしれない。

この研究についても、ひとまずデータをまとめて、学会発表までこぎつけることができました

(<http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200902216487638972>)。リンクはありませんが、国際学会でもポスター発表しました(ちなみに国際学会は日本での開催だったので日本人が多く、英語を話す機会はほぼ皆無でした)。

修士1回生の秋からは、就職活動が本格化します。就職について、私は何を考えていたのかといいますと・・・特に何も考えていませんでした(笑)。ただ、周りが就職活動するので、それに倣ってやったという、就職活動をしている学生が聞くと怒られるような動機だったと思います。また、農学部だったので、就職先は食品メーカーや製薬会社だと思っていたので、そのあたりで目欲しいところに片っ端からエントリーシートを出していました。

・・・典型的な、ダメな就職活動のパターンですね(笑)。まず、企業名は絶対に「知っているから」という理由で選んではいけません!もちろん、大企業に対する憧れや魅力は大きなものですが、やはり「自分がありのままの姿でいられて、大きな妥協をすることなく(多少の妥協は仕方ありませんが)仕事ができる職場」を選ぶべきです。そのためには「自分は何がやりたいのか」「自分はどんな価値観を大切にしているのか」を明確にしておかなければなりません。自己分析が目的になってはいませんが、表面的な分析や、結論ありきの分析ではなく、もっと深い分析をしていただきたいものです。当時の私みたいにならないように・・・。

高校生の皆さんにとっては、「企業」を「大学」に置き換えると全く同じことが成り立ちます。個人的には「とりあえず医学部」という考えは医学部に対して失礼だと思います。

また、実際に採用面接を受ければ分かるのですが、「なぜこの業界か」だけではなく「同業他社もある中で、なぜ弊社を選んだのか」と質問されることが多いです。だからやはり、中途半端な動機ではいけませんし、そのためにちゃんと企業のことを調べておかないといけません。もちろん自分を良く見せようとして回答すること

# 強者の戦略

もできますが、そうやって自分を偽り続けていると、どこかで限界がきてしまいます。これも入試の面接と似ていますね。医学部の面接であれば「医学部は医学部でも、なぜうちの大学なのか」と質問されることが多いのです。

さて、私の就職活動の結果ですが、やはりうわべだけの動機しかなかったのが、結果は散々なものでした。面接で落とされたことはもちろん、エントリーシートの時点で落とされたことも数知れませんでした。

就職活動を始めてからのことなのですが、周囲の友人や親からは「あんたはそのまま博士課程に進学した方が合ってるのに」とよく言われ、それがずっと頭の中でぐるぐるしていました。そりゃそんな簡単にブレる価値観では選考に通りませんよね(笑)。

そして、採用選考に落ち続けて、あっという間にまもなく修士2回生という時期。製薬会社の研究職の募集はほぼ終わりを迎え、食品メーカーの技術職の募集も終盤に差しかかっていました。このまま就職活動にこだわるべきか、博士課程に進学すべきかを迷っていて、某企業の説明会に行った後に、ここまでの疲れもあつたのか、「なんかもういいや」という思いが急激に強くなりました。研究するなら企業よりは大学に残ってやった方が面白そうと思えたのですね(もちろんこれも単なる偏見ですが…)。

こうして、博士課程に進学することになりました。当時は英断だと思っていたのですが、ここから、私は学生時代でもっとも苦しい時期を過ごすことになるのです…。

続きはまた次回にて。